

サービス向上・開発プロジェクト  
100以上の介護施設で人気のアクティを発信中！

# アクティ

介護施設で楽しめる  
スポーツ・脳トレを  
知りたい

安く簡単にできる  
大人の手工芸を知りたい

ご利用者さんと  
一緒にできる  
料理のレシピを知りたい

こんなお悩みをまるっと解決します！

アクティビティマップの  
冊子も各施設に配布中！



一人でもできるアクティを掲載！やり方のQ  
Genki Groupで実践した季節活動が分かる

青空ゼリー  
ヨーグルト  
ケーキ



大田翔裕園  
Instagram

大田翔裕園  
よりみちカフェ



スイカの  
フルーツ  
ポンチ

身近で揃えやすい材料や  
アクティビティの手順も公開中！

## この夏おすすめ アクティ

ふなばし翔裕園  
夏休み特別企画  
「子供料理教室&工作」



ベトナム  
料理



行徳翔裕園

スイカ  
甘酒  
ラッシー



ドリンクレシピInstagram



クレイ  
ミラー



クラフトレシピInstagram



世界の文化を  
取り入れた  
アクティビティ



Instagram  
チェック！



GENKIGROUP\_ACTIVITY

素敵なアクティはInstagramに掲載させていただきます♪

### Instagramアカウントのフォローをお願いします！

これまで各施設の Instagram の投稿や施設日記に掲載されているアクティを紹介してきました。掲載協力いただいた施設の皆様、ありがとうございます！今後は、アクティ予定が決まったら、Teams のサービス向上・開発プロジェクトのチャンネルに投稿いただくと嬉しいです！アクティ Instagram では、真似したくなる情報を発信していきます！

ID: genkigroup\_activity サービス向上・開発プロジェクト アクティビティマップ制作チーム

Genki Group 公式 YouTube チャンネルにて  
**Genki Group Gallery**  
2026年5月版公開中！

皆様の施設日記や Instagram を中心に投稿された中から、「特に良い取り組みだな」「ご利用者の表情が生き生きしているな」と感じた写真をピックアップいたしました。



Genki Group  
Gallery  
再生リスト



月刊

46 | 2026 June

# Genki



元気村グループ・サンガジャパン  
国際人財インタビュー

## 挑戦の先に見えた未来。 —ネパール・インドネシア・ ミャンマー出身3名のストーリー—

サービス向上・開発プロジェクト

### この夏 おすすめアクティ

Genki Group Award  
Genki Group of the Year

## 感動介護大賞 受賞者インタビュー

# その方の人生を知り、共に生きる

## 三浦 雅代さん 勝山 由実さん

Genki Group Award  
感動介護大賞受賞者

ふなばし翔裕園

感動介護大賞受賞者

三浦さん推薦者

三浦 雅代さん 勝山 由実さん

インタビューさせていただきました

国際人財インタビュー

挑戦の先に見えた未来。

一ネパール・インドネシア・ミャンマー出身3名の  
ストーリー

サービス向上・開発プロジェクト  
この夏おススメのアクティ

グループの  
取り組みを **プレスリリース** として配信しています!

こうのす共生の家・加須デイサービス爽やかな風・北おおみや翔裕館

3施設の運営を引き継ぎ、地域の高齢者福祉をさらに前進へ。  
元気村グループ&サンガジャパン、埼玉県内に新たな3拠点を  
6月1日より事業譲渡を受け開設。

#### ■ こうのす共生の家 | 鴻巣市

デイサービス

サービス付き高齢者向け住宅

元気村グループが平成5年に創業した地・鴻巣市に、サービス付き高齢者向け住宅とデイサービスが一体となった新施設を開設しました。  
ご利用者一人ひとりの「らしさ」を大切に、安心してその方らしく暮らしていただけるよう、「お助けデイ」ともいえる役割を果たしながら、仲間や友人と過ごすことができる場所を提供してまいります。地域に根ざした温かな場所として、地域一番となるよう誠実に歩んでまいります。



#### ■ 加須デイサービス爽やかな風 | 加須市

デイサービス

加須市騎西エリアに、定員25名の通所介護施設を新たに開設しました。  
「爽やかな風」の名の通り、ご利用者の毎日に明るく前向きな風を届けたいという想いのもと、入浴・機能訓練・アクティビティなど充実したサービスを提供します。住み慣れた地域で自分らしく生き生きと過ごしていただけるよう、一人ひとりに寄り添ったサービスを提供してまいります。元気村グループの一員として、地域一番となるよう新たな歩みを始めます。

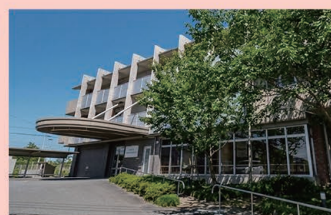


#### ■ 北おおみや翔裕館 | さいたま市西区

デイサービス

住宅型有料老人ホーム

デイサービス併設の住宅型有料老人ホームです。  
対面居室を備えており、夫婦でのご入居にも対応可能な住環境が特長です。  
住まい・通い・介護を連携させ、地域に根差した日常生活の継続を支援いたします。



2026 June

Vol.46

Genki  
月刊

げんきぴあ  
(職員サイト)  
からでも  
読めます!



※QRコードをクリックすると  
ページ移動します。



元気村記事はこちらから  
※QRコードをクリックすると  
ページ移動します。



推薦者

勝山 由実さん 三浦 雅代さん

インタビューさせていただきました

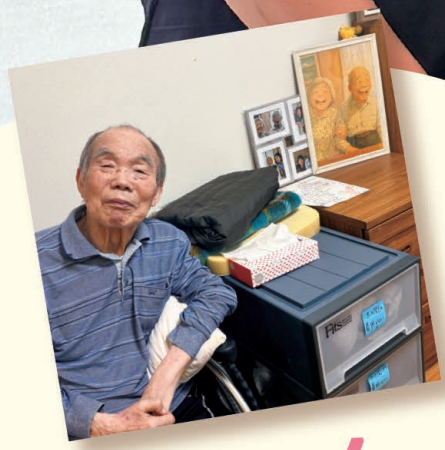
#### エピソード紹介

私が推薦するのは介護課、三浦雅代主任です。彼女は常にお客様との対話を怠らずその人が何を大切に今までの人生を歩み、今があるのか、お客様の立場に立ち寄り添うことのできる人です。今回はそんな三浦主任のエピソードを紹介したいと思います。当時、三浦主任がリーダーを務めるユニットにとっても仲の良いご夫婦がいました。ご主人がご入居されており、奥様が面会に来ると手を握りながらいつもお話ししている姿が印象的な方でした。面会がない時も奥様の話をすごく幸せそうに三浦主任に話していたそうです。そんなある日ご家族より、奥様が肺がんになり余命宣告をされたことを告げられました。残り少ない夫婦の時間、共に生活するのは現実的に難しい、夫であるお客様には奥様の最後は理解できるのか、何かを残すことはできるのか、認知症があるお客様が、命に限りがある奥様に何ができるかを考えていました。そして、お客様の願いで奥様に最後の恋文を書くことに。仕事の合間にお客様と文字の練習。たった一言「愛してる」と一緒に映った写真を絵画にし、そこにつづりました。夏祭りの日、奥様は車いすになっていました。目に涙を浮かべ、メッセージを手渡し、「ずっと愛してる」と伝えました。さらに三浦主任は同じ絵画をもう一枚用意。そこには妻から夫へ同じメッセージが書かれました。残念なことに奥様はお別れとなりました。それでもお客様は、今でも妻からの贈り物を見て「最高の笑顔なんだ。この状態で覚えていたい」と話しています。その絵画が心の支えになり「長生きしないとな。いい笑顔だ」と少し寂しそうに微笑む姿を見ると、これこそ深く理解し寄り添う介護なんだと感じます。



ふなばし翔裕園  
相談員  
エピソード推薦者  
**勝山さん**

ふなばし翔裕園  
介護主任  
感動介護大賞受賞者  
**三浦さん**



## 今回のエピソードの推薦理由

**勝山** 職員さんは技術的に優れていたり、仕事がテキパキできて業務が回せる人がたくさんいると思うんですが、私が思うにご利用者と対話ができる職員さんは、ご利用者にとってもQOLの向上に関しても大事だと思っています。そこを考えると三浦主任はいつもご利用者と対話をし、何をしたいのか、どういう想いで、どういう生活歴で今のご利用者がいるのか、というのを常に考え行動している職員だと思いますので、今回私は三浦主任を推薦させていただきました。

## 2人にとっての 目指したい感動介護とは？

**三浦** ご利用者が今まで歩んできた人生を深く理解し、今まで何を大切にされてこられたのかをよく考え行動していけたらと思います。**たくさんコミュニケーションをとる、たくさんお話をする、小さなことにも小さな変化にも気づく**、そこから感動介護が生まれるのではないかなと私は思っております。

**勝山** Genki Groupの理念である“共に生きる”にすごく共感をして入職しました。障害のある方、認知症のある方、職員も多種多様にいると思うのですが、**一緒に成長しながら一緒に生きていく**ということができることが感動介護につながるのかなと思います。

人生を  
共に  
生  
きる  
感動  
介  
護

## 感動介護とは

私たちが目指す”感動介護”とは、安心安全な生活の提供だけでなく、ご利用者一人ひとりを深く理解し、**その人らしい「生きがい」**を感じられる豊かな生活を届け、期待を超えたサービスを提供することです。



**傾聴・深い理解**  
ご利用者の言葉の奥にある想いを受け取り、一人ひとりに向き合います。



**期待を超えるケア**  
「当たり前」の一步先へ。小さな気づきが大きな感動を生みます。



**生きがいのある生活**  
その方らしい毎日を共に創り、豊かな時間をお届けします。

## 年に1度の社内表彰式

Genki Groupでは、年に一度「Genki Group Award」と呼ばれる社内表彰式を開催しています。現場で日々生まれる一つ一つの思いや行動によって紡がれた感動介護を生み出したヒーロー、ヒロインを称え、グループの仲間たちと共有します。



## 受賞の瞬間と現場の反響



**三浦** ただただ驚きでした。毎回賞を受賞された方たちのエピソードを聞いて、私の方が学ばせていただく方でしたので、まさか今年は自分が賞をいただけるなんて。本当に光栄でした。

**勝山** 感動介護大賞に選ばれた時「やった！」という思いがありました。感動介護大賞はお客様に「何をしてあげたいか」「一緒に思いを叶える」というところが主かなと思っておりましたので、いつも寄り添っている三浦さんにぜひしてほしい！と思っていたので本当うれしい気持ちでした。



### Genki Group Award 表彰サイト

たくさんの感動介護  
を紹介しています！  
是非ご覧ください



※QRコードをクリックすると  
ページ移動します。

ID : genkiaward PASS : genki!

# “限られた時間”の中で、 ご夫婦のためにできること

**勝山** 私は相談員という立場で聞いていたのですが、「ここに入れてよかった。安心して私は先に行けるよ。主人をよろしくね」ということを言われまして、背負っていけるのかな、大丈夫かなという不安がありました。奥様がすごく愛らしい方だったので寂しいな…というのが正直な気持ちです。できる限り夫婦で過ごしていただきたいという思いが強かったです。

**三浦** 私が奥様の余命宣告を知ったのは、勝山さんからお聞きしました。もちろんご主人のこともとても心配だったのですが、ご主人を大切にされている奥様が余命宣告をされてしまったということで、奥様のお気持ちの方もとても心配になりました。

## 伝えたいのは「愛してる」 何度も練習した一通の恋文

**三浦** 入浴介助で一緒する際に、奥様や娘様のお話をされます。その時に私が「奥様のどんなところが好きですか？」「奥様とどこか行きたいところありますか？」という質問をしてしまうのですが、必ず「全部好き。だって愛してるんだもん」とおっしゃいます。

**勝山** 奥様の余命を聞き、三浦主任に相談した所、「写真をあげようかな」という話をしました。ですが写真だけを飾るにはちょっと味気ないので、AIを使って絵にしてみようかと提案した後に、三浦主任から「一言メッセージを書いてあげたい」と提案があり、ご主人と相談しました。字が書けるかなと心配をしていたのですが、「ご主人と練習します」と三浦主任との練習が始まりました。何を書くのか決めたの？と聞いたところ「愛してる」と書きたいって本人が言ったんです」と聞いて出来上がりがすごく楽しみでした。

奥様に恋文で  
どんなことを  
伝えたい  
ですか？



“愛してる”  
と伝えたい

一生懸命に  
何度も何度も紙に書く練習し  
ご本人も元気が  
出てきたのが印象的でした！



## 感動介護 エピソード Question

# 「生まれ変わっても一緒になろうね」 涙に包まれた夏祭り

**三浦** 事前にお部屋の方にソファを用意させていただきました。夏祭り当日奥様は元気にいらしてくださったのですが、ソファで休まれることなく笑顔で車椅子と車椅子を向かい合わせにし、ご主人からのプレゼントを手渡ししていただきました。その時の奥様の笑顔と「お父さんありがとう」という言葉がもうとても感動してしまい、そこに居合わせたお孫さん、娘さん、他職員みんな涙が出てきてしまいました。



## 当時の様子



**勝山** 奥様にもメッセージを書いてもらうということで、もう一枚同じものを用意してその場で書いていただきました。何を書いて欲しいというのは特に言わなかったのですが、同じメッセージを書いていました。奥様のお名前がちょっと変わった字なのですが、「名前もちゃんと覚えてたんだ」と奥様が嬉しいと言っていました。渡された時にご主人が「生まれ変わっても一緒になろうね」と言っていたのを聞いて素敵な夫婦だなと思いました。

業務  
の中で

## どんな介護を 大切にしたい？

**三浦** 小さな気づきと温かみのある関わり方を意識してご利用者にとって毎日楽しく笑顔で楽しみを見つけていけるようなお手伝いができるケアをしていきたいです。

お忙しい中、ご対応ありがとうございました！



## ふなばし翔裕園

千葉県船橋市旭町4丁目19-30



千葉県船橋市にある地域密着型の特別養護老人ホームです。社会福祉法人「長寿の里(元気村グループ)」が運営しており、全室個室のユニットケアを通じて一人ひとりの生活リズムを尊重した個別ケアを提供しています。

施設の情報発信はこちら



施設 HP



施設日記



Instagram  
(長寿の里)



# 介護福祉士の資格を活かして活躍！

## 琵琶湖大橋翔裕館Ⅰ号館 ネパール国籍 KC さん

—— 国籍を超えて響き合う「感動介護」のカタチ。  
～国際人財とともに挑んだ GG プログラム、Gold 賞の舞台裏

Genki Group Award2025 にて、GG 式認知症ケアプログラムで Gold 賞 3 連覇を果たした「琵琶湖大橋翔裕館Ⅰ号館」。全常勤スタッフの半数を国際人財が占めるなか、いかにして高いケアの質とチームワークを両立させているのか。ネパール国籍の KC さん、そして Gold 受賞に導いたチームにインタビューしました。

### 10年前にネパールから日本、そして介護の道へ

—— KC さん、まずは日本に来たきっかけと、これまでの歩みを教えてください。

**KC** 日本に来て 10 年、このグループに入って 6 年になります。母国ネパールでは当時、介護という仕事自体がありませんでした。でも、家で親や祖父を一生懸命に介護する家族の姿を見て、「自分も誰かの役に立ちたい」と強く願うようになりました。インターネットや友人の話で日本の介護を知り、日本語学校、専門学校を経て、念願の正社員になりました。妻を呼んだ後子どもを授かり、今は家族で生活しています。パパ育休をとって日本語が全くできない妻を支えていました。

**古川** 琵琶湖Ⅰで国際人財の受け入れを始めたのは 5～6 年前。当時はまだ海外スタッフが少なく、正直「ドキドキ・ワクワク」という期待と不安が入り混じった状態でした。

しかし、実際に一緒に働き始めると、彼らの真面目さ、そして 20 代という若さ溢れるエネルギーに圧倒されました。サボることもなく、真剣に日本語を学び、私たちの話を聞いてくれる姿勢を見て、すぐに「これは成功する」と確信しました。

**平井** 現在、琵琶湖Ⅰでは 7 名の国際人財が在籍しており、これは常勤スタッフの半分にあたります。ネパール、インドネシア、ミャンマー、スリランカと 4 カ国から集まった 7 名の国際人財が活躍しています。

### 「GG 式」が言葉の壁を橋渡しする。表情と情熱のコミュニケーション

—— 異なる言語や文化を持つメンバー同士、どのようにケアを共有しているのでしょうか？

**KC** 日本語が完璧でなくても、ご利用者様に不安を与えない方法があります。着替えや歯磨きの前に、まず丁寧な「ジェスチャー」を交えることです。自分が知識不足の時は、すぐに先輩にアドバイスをもらいます。お互いに「できたこと」を教え合う環境が、私たちの安心感に繋がっています。

**古川** ケアトレーナーとして驚いたのは、ミャンマーから来たばかりで日本語がまだ難しいスタッフでも、私たちの「GG 式」のプログラムを通じると、驚くほど想いが伝わることです。全員でロールプレイを行い、現場で「うまくいった！」という成功体験を積み重ねることで、彼らの中に強い積極性が芽生えていきました。

**木村** 国際人財のメンバーは、表情や声のトーンが本当に優しいんです。

### Good/More カードが創り出す、感謝の連鎖と改善の文化

**古川** 昨年 1 月から「Good/More カード」を導入しました。1 日 1 枚、感謝や褒め言葉（Good）、もっとこうすれば良くなる（More）をカードに書いて共有しています。最初は「何を書けばいいのか」と悩むこともありましたが、今では「つい書きたくなっちゃう」ほど良い文化になりました。

**平井** カードを導入したことで、「言葉が変われば介護が変わる」という実感が生まれました。集計してみると、GG 式認知症ケアプログラムの〇番ができていて素晴らしい」といった具体的な内容が増えており、良いケアを「真似て」「まねぶ」風土になってきたと感じます。



また、4 月からは会社としてインセンティブも付けてくれたので、さらに活発になりました。玄関を入ってすぐの場所に全員のカードを貼っているの、誰もが仲間の活躍を目にすることができます。

**木村** 国際人財のメンバーも、このカードからたくさんの「Good」をもらっています。彼らにとって、自分の頑張りが可視化されることは大きな支えになっています。負担も大きい仕事だと思いますが、みんなポジティブに捉えてくれています。

**平井** KC さんが表彰式の際、「自分一人の力ではなく、環境を作ってくれた皆のおかげ。みんなに感謝している」と話している姿を見て、私たちが胸が熱くなりました。彼は、お子さんが生まれる前の不安な時期でも、自分で制度を調べ、資源の活用を上手に行い自走する力がある人です。「共に生きる」という理念を土台から理解してくれている彼には、今後はぜひリーダーとして現場を引っ張ってほしいと考えています。

### 未来のリーダーへ。

#### 諦めない心が未来を拓く

—— これから国際人財として働く後輩や、受け入れを検討している施設へアドバイスをお願いします。

**KC** 先輩として伝えたいのは、まず自分の心配事や不安は、一人で抱えずに上の人や相談しやすい人に伝えてほしいということです。自分自身を知ること（自己覚知）ができれば、人との接し方もスムーズになります。私たちの仕事は「人間」に関わることですから、難しいこともあります。でも、諦めずに関わる回数を増やしていけば、必ずコミュニケーションは成立します。また、仕事と生活を分けて考えることも大切です。サンガジャパンは面談も多いので、困ったことがあれば誰でも教えてください。いつでも前を向く、諦めない気持ちが一番大事です。

**平井** 受け入れ側の工夫としては、面談の仕方をアップデートしています。「大丈夫？」と聞くだけでは「大丈夫です」と返ってきってしまう。そうではなく、「これはどういう意味だと思う？」と具体的に問いかけ、理解度を確認しながらサポートする機会を見極めています。実は後から「最初は先輩が怖くて我慢していた」と打ち明けてくれたスタッフもいました。そうした本音を共有できる環境を整え、適切な声掛けを行い、より働きやすい職場でありたいと思っています。

**KC** 私にとってこの施設は「一つの家」であり、仲間は「家族」です。海外から来た私たちを家族のように認めてくれるこの現場は、他にないほど素晴らしい場所です。だからこそ、精一杯頑張りたいと思っています。

これからの目標は、相手の意図を深く理解できる人になることです。

認知症ケアは、不安になってから対処するのではなく、不安になる前に先回りしてケアをすることが重要です。それが「感動介護」であり、ご利用者様の生きがいを叶えることに繋がると信じています。

— 最後に、メッセージをお願いします。

**KC** 計画を立てて、一歩ずつ前に進むことで、未来は必ず明るくなります。一緒に頑張らしましょう！

#### MEMBER（写真左から順に）

木村さん（GH 管理者）・平井さん（施設長）  
KC Prakash/ケーシー ブラカスさん（ネパール出身）・古川さん（ケアトレーナー）





# 特定技能/入社3年目で副主任に！

かたた駅前翔裕館  
インドネシア国籍 シャフィイさん

—— 出遅れたからこそ、本気になれた  
～ 国際人財とチームが一丸で歩んだ、  
GG Gold 認定の軌跡

Genki Group Award2025 にて、見事「GG 式認知症ケアプログラム」のGold 事業所認定を受けた「かたた駅前翔裕館」。実は、スタートは決して順風満帆ではなかったといいます。高い壁をどう乗り越え、国際人財と日本人スタッフがどう絆を深めたのか。その軌跡をインタビューしました。

## 日本での3年、かたたでの2年。信頼で結ばれた『副主任』への道

—— まずは今回の立役者の一人である、シャフィイさんのこれまでの歩みをお聞かせください。

**シャフィイ** 私は日本に来てから 3 年になります。日本に来てすぐに介護の仕事を始めました。「かたた駅前翔裕館」に入ってから約 2 年間お世話になっています。

**田中** シャフィイさんは入職当初から非常に意欲的でした。浸透委員の宮腰さんが献身的にサポートしてくれたこともあり、頼れる存在になっていきました。現在は国際人財が 1 名の中、「副主任」という大役を任せています。日勤・夜勤の業務を完璧にこなすだけでなく、新しい職員への指導も率先して行ってくれています。彼の存在そのものが、今の「かたた駅前翔裕館」のケアの質を支える大きな柱になっています。

## 挑戦の始まり——お手本があったからこそ、火がついた

—— Gold 認定、本当におめでとうございます！取り組みを始めたきっかけを教えてください。

**宮腰** 実は、最初から「やるぞ！」と 1 年間ずっと走り続けていたわけではないんです。本格的に動き出したのは 5 月頃からでした。きっかけは、近くにある「琵琶湖翔裕館 I 号館」が先に Gold 認定を受けていたことです。身近に素晴らしいお手本があったので、「私たちもあそこを目指そう」と目標が明確になりました。



**田中** 正直なところ、出だしが遅かったので「今年は間に合わないかもしれない……」と弱気になった時期もありました。でも、グループホームとして、私たちの認知症ケアが本物であることを証明したいという思いは強かった。宮腰さんが浸透委員として「やりましょう！」と立ち上がってくれたことで、一気に現場に火がつけました。

**宮腰** まず始めたのは、グループ独自のケア基準である「GG 式認知症ケアプログラム」の項目 1～10 を全員に覚えてもらうことでした。プリントをコピーして休憩室の目立つところに貼り、毎月の研修にも積極的に参加してもらうようにしました。

## 言葉の壁を越える「共学」の精神

—— シャフィイさんは、最初にこの「GG 式」に触れた時、どう感じましたか？

**シャフィイ** 最初はとても難しかったです！特に漢字の意味が分からなくて苦労しました。でも、勉強を続けていくうちに、ご利用者様とのコミュニケーションがすごくスムーズにできるようになったんです。勉強の中で難しいことがあったら、すぐに宮腰さんや早水さんに聞いていました。

**宮腰** シャフィイさんからの質問は、私たちにとってもすごく刺激になったんです。「この漢字はどういう意味？」と聞かれることで、私たちも言葉の定義を考え直したり、より分かりやすく伝える工夫をしたり。教えることで自分たちの理解も深まる、まさに「相乗効果」がありましたね。

**早水** でも、シャフィイさんに伝わるように丁寧に、ゆっくりと教えていく過程が、結果として私たち自身の「言葉を大切にするケア」に繋がったんだと思います。



## ケアの変化——

### 「目に見える」ご利用者様の穏やかな表情

—— 具体的に、現場のケアはどのように変わっていったのでしょうか？

**シャフィイ** 一番大事にしているのは、ご利用者様に話しかける前の動作です。必ず手を振って、自分の存在を先に知ってもらう。そうしないと、ご利用者様がびっくりしてしまいますから。話し方も変えました。以前は長い文章で話していましたが、今は 2～4 つの短い言葉で伝えるようにしています。

**宮腰** その変化は劇的でした。9 月くらいから、施設全体の空気が明らかに変わったんです。最初は研修を受けても現場に浸透させるのが難しかったのですが、

たのですが、シャフィイさんたちが「目線を合わせる」「短い言葉で伝える」という基本を徹底してくれたことで、徐々に全体へ広がっていきました。

**早水** ホワイトボードを活用したのも大きかったですね。琵琶湖 I のやり方を参考に、ロールプレイの内容を書き出して、フィードバックを行う。そうすることで、自分のケアを客観的に見直せるようになりました。

**田中** 取り組みを始めてから、ご利用者様の表情が本当に穏やかになったと感じます。もともと不適切なケアはありませんでしたが、今の空気感はそれ以上に「優しい」んです。スタッフの態度や表情がご利用者様に伝播しているんだな、と実感しました。

## 追いつきの熱意——エリアの影響を受けた団結

—— 「追いつき」の時期、特に力を入れたことは何ですか？

**田中** 大津エリアでの会議ですね。それまでは出席率があまり良くない時期もあったのですが、「せっかく目指すなら」ということで他スタッフも積極的に参加するようになりました。エリアの会議では勉強会や意見交換、ロールプレイを通じて、自分たちの現在地を確認し合いました。この「他拠点と競い合い、高め合う雰囲気」が施設内に伝播したのが大きかったです。

—— 受賞が分かった時の心境は？

**田中・早水** 実は、最初はゴールドだとはピンと来ていなかったんです。「もう一息でしょう」というニュアンスのコメントも見えたので。でも、井岡さんから「ゴールドだよ！」と言われて、驚きが爆発しました。宮腰 私もおめでとうございますと言われて、よく分からないまま「とりあえずありがとうございます！」と返していました（笑）。後から実感が湧いてきて、本当に嬉しかったです。賞状は、正面玄関のイルミネーションの賞の隣に飾っています。

## 未来へのメッセージ

—— これからの目標を教えてください。

**シャフィイ** 私はこれからも、新しい職員さんに仕事を教えていきたいです。日本語が難しくても、毎日少しずつ頑張れば絶対に上手くなります。ご利用者様のため、会社のため、もっともっと頑張りたいです！

**田中** シャフィイさんは現在、副主任として立派にキャリアを積んでいます。彼をサポートしてくれた宮腰さんや早水さんの丁寧な姿勢が、今の彼を作ったんだと思います。宮腰さんも介護福祉士に合格しました。この「教え合い、高め合う」文化こそが、私たちの誇りです。



### MEMBER (写真左から順に)

田中さん（施設長）・シャフィイさん（インドネシア出身／副主任）・早水さん（GH 管理者）・宮腰さん（浸透委員）



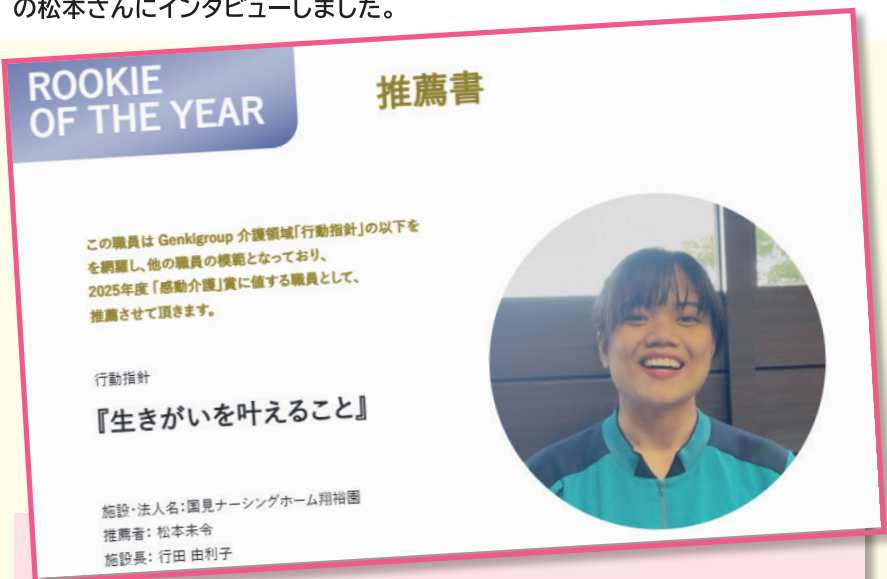
# GGA2025で ルーキー賞受賞！

国見NH翔裕園 ミャンマー国籍 プーさん

—— ご利用者と紡ぐ「家族のような絆」 ——

笑顔の太陽・プーさんが届ける感動介護

Genki Group Award2025 にて、ルーキー賞を受賞したプーさん、推薦者の松本さんにインタビューしました。



## 推薦エピソード

初めて会ったのは入職前に、施設へ挨拶をしに来てくれた時です。人懐っこい笑顔が可愛らしく、言葉を発する前からその場が明るくなったのを覚えています。

その笑顔の通り、忙しい時でも笑顔を決やさず、周囲を明るく照らし続ける彼女の姿は、職場の雰囲気を柔らかく、そして前向きにしてくれています。

半年が過ぎ仕事にも慣れてきた頃、女性ご利用者から思いがけない言葉を聞きました。「プーちゃんが寂しいって泣くの。お母さんに会いたいって。」

いつも笑顔で明るいプーさんからは想像がつかない話で、とても心配になりました。私たちのプーさんへの心配りが足りなかったのではないかと、反省の気持ちから深く落ち込んだのを覚えています。けれどその後、女性ご利用者はこう続けました。「プーちゃんが頑張っていることはみんな知ってるんだよ！遠い国から来て頑張っている姿に元気をもらってるんだから！お母さんもわかってるから！って抱き合って一緒に泣いたのよ。」と笑顔で話されました。

「私も頑張るからプーちゃんも一緒に頑張ろう！って言いながら私が生きる喜びをもらったの。」私はこの言葉にハッとしました。

遠く離れた家族を想いながらも目の前の人のために笑顔を届け続ける彼女の姿が、ご利用者の心を動かし、「私も頑張ろう」と思わせる力を持っていたのです。

ご利用者の生きる喜びを与えることができていた彼女は、立派な介護士であり、私たち職員の誇りです。私は自信を持って、プーピソンエーさんを推薦いたします。



## 受賞の背景——「支えたい」と

### 思わせる天性の明るさ

—— ルーキー賞受賞、本当におめでとうございます！改めて選出の理由を教えてください。

**松本** 推薦文にも書いた通りなんですけど、プーさんはとにかく明るい！彼女が出勤するだけでフロアの空気がパツと華やぐんです。でも、最大の理由は「ご利用者の心を動かす力」にあります。ある時、ホームシックで泣いていたプーさんに、女性のご利用者が「二人で頑張ろうね」と励ましてくださったことがありました。スタッフがご利用者を支えるだけでなく、ご利用者が「この子を支えてあげたい」と感じる。そんな生きがいを生み出している姿を見て、受賞を確信しました。

**プー** 受賞を聞いたときは本当にびっくりして、嬉しかったです。あの時励ましてくれたご利用者さんのことは今でも忘れません。フロアが変わった今も、会うたびに「今日は元気？」と声をかけてくれます。



## ケアの極意——言葉の壁を越える「察する力」

—— ご利用者とのコミュニケーションで、特に意識していることはありますか？

**プー** 相手の「顔の表情」をよく見ることです。言葉がなくても、今どんな気持ちなのかを一生懸命考えます。あとは、必ず顔を見て名前を呼ぶこと。やりたいことを聞いて、一緒にやるようにしています。

**松本** 彼女は「待つ」ことができます。例えば歯磨きを嫌がる方に対し、無理強いせず一度別の話をしたり、お茶を勧めたりして、相手のペースに合わせる。毎月の認知症ケアロールプレイ研修で学んだことを、素直に、そして丁寧に現場で実践してくれています。

## 学びの姿勢——「ことわざ」が繋ぐ、ご利用者との深い時間

—— 日本語の習得だけでなく、「ことわざ」も勉強されていると伺いました。

**プー** はい。遅番の時間などに、ご利用者さんに教えてもらっています。最近は「以心伝心」や「一期一会」を覚えました。難しい漢字はご利用者さんに書いてもらって、意味も一緒に勉強します。

**松本** この「教わり上手」な一面がとても素敵なんです！リハビリ主体の老健において、プーさんに何かを教える時間は、ご利用者さんにとっての生きがいや役割にもつながっています。プーさんの人を惹きつけるあたたかい人柄があるからこそ、ご利用者さんと安心できる繋がりが日々の中で育まれ、ご利用者さんが自ら関わり、支えたいくなるような関係性につながっています。

## 失敗を糧に——東北の冬と、後輩へのアドバイス

—— 日本での生活も1年半。苦勞したことはありましたか？

**プー** 東北に住む人にアドバイスがあります。一度、外出時にブレーカーを落としてしまい、水道管を凍らせて破裂させてしまったことがありました。ミャンマーではブレーカーを落としてから出かけるので、びっくりしました。

**松本** あの時は大変でしたね（笑）。でも、新しく入ってきたミャンマーの後輩たちに、真っ先にアドバイスをしてくれていました。

**プー** 自分が困ったことは、後輩には経験してほしくないですから。仕事も生活も、少しずつ慣れていけるように支えていきたいです。

